

時計台 前から

SAPPORO INTERNATIONAL COMMUNICATION PLAZA FOUNDATION

vol. 72
November/2010

財団法人 札幌国際プラザ

〒060-0001
札幌市中央区北1条西3丁目 札幌MNビル
Kita1 Nishi3, Chuo-ku, Sapporo 060-0001
JAPAN
TEL: 011-211-3670 FAX: 011-211-3673
E-mail: sjicpf@plaza-sapporo.or.jp
URL: http://www.plaza-sapporo.or.jp

北海道の森林保全と環境への配慮のため、道産間伐材を原料にした用紙、有害廃液の出ない「水なし印刷」及び大豆インキを使用して作成しています。



P02

■ 特集

札幌の5番目の姉妹都市 韓国・大田広域市 テジョン



P04

■ 多文化交流

真の友好・信頼関係を築くために ～札幌・瀋陽友好都市提携30周年記念事業～ ほか



P06

■ 多文化交流

札幌・ノボシビルスク 姉妹都市提携20周年 ～ノボシビルスクから訪問団が来礼!～ ほか



P09

■ コンベンション

中国のMICE市場に手ごたえ ～CIBTM2010出展～ ほか

1990年以来20年ぶりに、札幌の新たな姉妹都市が誕生しました。両市は今後、文化芸術、スポーツ、学術、青少年、経済など幅広い分野における市民主体の交流をすすめる、相互理解のもとに信頼関係を築いていきます。

姉妹都市提携記念行事

10月22日(金)、札幌パークホテルで行われた調印式で、上田文雄札幌市長と廉弘喆(ヨム・ホンチョル)大田広域市長が盟約書に署名し、札幌市と韓国・大田広域市は姉妹都市提携を結びました。

札幌市と大田広域市は共通の姉妹都市(ロシア・ノボシビルスク市)を持つことが縁で2003年から交流を開始しました。距離的にも近く、歴史・文化的な関わりも深い韓国とは、これまでも経済交流の発展に関する覚書を交わしたり、相互訪問をするなど交流を積み重ねてきました。今回、さらに多くの市民が参加して幅広い交流を行うために、姉妹都市提携をする運びとなりました。

上田市長は「両市の交流と協力を通じ、互いに発展することはもちろん、今後の日韓関係の新しい道標を作りたい」と述べ、廉弘喆広域市長は姉妹都市提携のために札幌市民が行った支援に感謝の気持ちを表し「両市のより一層深い友情と緊密な協



また調印式当日、中島公園では両市長をはじめとする関係者による記念植樹が行われました。植えられた白木蓮の花言葉「友情」のように、今後、両市の友情と交流は長く続くことでしょう。



力により、北東アジア地域の発展を牽引するアジアの中心都市として発展できるように、市民には両市の交流に積極的に参加してほしい」と述べました。

調印式では札幌国際プラザ・コンベンションビュローと大田コンベンションビュロー、札幌国際プラザと国際文化交流院、札幌旭ヶ丘高等学校と大田外国語高等学校がそれぞれ交流協定を結びました。調印式とその後に行われた祝賀会には大田広域市の代表団55名に加え、札幌市民・各界関係者約300名が出席し、両市の友好と発展を祝いました。

日韓初！大田コンベンションビュローと「MICE発展のための覚書」を交換



当コンベンションビュローは財団法人大田コンベンションビュローと「MICE発展のための覚書」を交換し、日韓第一号となるビュロー同士の交流がスタートしました。大田コンベンションビュローは2005年に設立され、韓国を代表するMICE産業都市である大田のけん引役として、昨年度は400件以上の行事を開催しました。

覚書の交換のために来訪された崔興植(チュ・フンシク)代表理事を囲み、札幌のMICE関係者との懇談会を開催し、市民のおもてなしに支えられた札幌の取り組みや、今後の事業協力について活発な議論を行いました。崔代表理事は、「札幌雪祭りや大田ワイン祭りなど、祭典と国際会議を結びつけることで、両市の発展と市民交流

を促進したい」と抱負を述べました。大田では、2012年に「世界司厨士(シェフ)協会連合総会を予定しており、崔代表理事は滞在中に、日本を代表するすし職人である「すし善」の嶋宮勤氏と会談。また、ノーベル化学賞受賞者を輩出した北海道大学を訪問したり、2009年に大田で行われた「国際宇宙会議」に参加した北海道宇宙科学技術創成センターの秋葉録二郎氏との会談を行いました。



国際文化交流院との姉妹団体提携

国際プラザは今回の姉妹都市提携を契機に大韓民国社団法人国際文化交流院と姉妹団体提携をすることになりました。国際文化交流院は1996年設立された非営利法人です。国際文化交流活動の振興、情報収集、青少年親善交流、多文化家族(国際結婚の家庭)の支援を主な事業として展開し、2005年には大田広域市「国際交流セン



国際文化交流院 金院長(前列中央)、朴運営委員(前列右)

ター」の運営も受託しています。今回調印された交流協定書には「両市の幅広い市民交流を推進するため継続的に協力する」「相互の文化理解に関する事業を企画および実施する」「その他、両市の友好に資する情報交換・人材育成等の事業を推進する」以上の3点が銘記されました。調印に先立ち、10月20日(水)に国際文化交流院の金珍培(キム・ジンベ)院長と朴珉子(パク・ミンザ)運営委員が国際プラザを訪ねられました。両団体の事業紹介の後、金院長は「国際文化交流院はかねてより札幌に交流の拠点をもちたいと希望していました。プラザと文化院の特性を活かしながら、多方面での協力ができればと思います」と今後の交流事業について期待を述べられました。

両氏は札幌滞在中に札幌コンサートホールKittara、札幌ビリカコタン等の文化施設の視察も行い、今後の両団体の提携事業について具体的なイメージを持って帰国されました。

大田広域市へようこそ!

- ・経緯 北緯 36° 10' 50" ~ 36° 29' 47" 東経 127° 33' 21" ~ 127° 14' 51"
・面積 539.78km²
・人口 約150万人(韓国で5番目) ※2008年12月現在
・平均気温 年12.3℃ 1月-1.9℃ 8月25.5℃

工学、電子などの研究所も多く、先端科学観光都市と呼ばれています。伝統的な建造物、美しい自然、公園、テーマパーク、博物館、スタジアムなど多種多様な観光が楽しめる街です。

(札幌市総務局国際部「大韓民国大田広域市姉妹都市提携記念パンフレット」より)



大田広域市 市章



大田は国土の中心に位置する交通の要衝の地です。南北につながる大規模な高速道路と鉄道が大田で交差・分散しています。そのため、大田から半日で全国どこにでも移動することができます。首都ソウルまでは高速鉄道で1時間以内です。

大田には温泉、便利な宿泊施設、ショッピング、交通網など観光インフラが整備されています。また、大田は韓国一の「科学のまち」です。1993年に世界博覧会(エキスポ)が開催されたほか、宇宙開発や生命

「ちがいを認め合う社会をめざして」多文化共生ワークショップ開催

今年度国際プラザでは、(社)北方圏センター、NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会との共催で「多文化共生ワークショップ」を実施しています。これは道内諸地域の自治体や団体等が抱える、外国人住民に関する諸課題を共に解決することを目指し、顔の見えるつながりをつくり、多文化共生の地域づくりを進めようというものです。自治体職員、市民団体等、様々な立場、分野の方々が参加し、北海道・札幌における多文化共生を考える機会となっています。

7月17日(土)に開催した第1回目は、多文化共生マネージャー全国協議会から志渡澤祥宏さん、全国市町村国際文化研修所(JIAM)から加藤純子さんを講師として迎え、日本における多文化共生の現状や他地域での取組みが紹介されました。グループディスカッションでは「10年後の北海道はどうなっているだろうか」をテーマに積極的な意見交換がなされました。



第1回講師:志渡澤 祥宏氏

開催。講師は多文化共生センター大阪代表理事の田村太郎さんです。阪神・淡路大震災で被災した外国人への多言語情報提供をきっかけに同センターを設立され、外国人が直面する課題対応のための地域社会変革の仕組み作りを提案し続けていらっしゃる、いわば多文化共生分野の第一人者です。「多様な担い手が連携してつむぎだす多文化共生社会」をテーマに行われた講演では、外国人住民は「コスト」ではなく地域活性化につながる「プロフィット」であり、多文化共生への多様な担い手が「協働」ではなく「総働」で取り組んでいくことが重要であると述べられました。多様な担い手がつながり、外国人住民と一緒に北海道を活性化させよう!という観点で多文化共生に取り組んでいけたら



グループディスカッション



第2回講師:田村 太郎氏

と、思いを新たに作るワークショップとなり、今年度最後のワークショップは来月1月に予定しています。

真の友好・信頼関係を築くために 札幌・瀋陽友好都市提携30周年記念事業

札幌には5つの姉妹都市があり(アメリカ・ポートランド市、ドイツ・ミュンヘン市、中国・瀋陽市、ロシア・ノボシビルスク市、韓国・大田(テジョン)広域市)、1980年に友好都市交流を開始した瀋陽市とは、今年が友好都市提携30周年にあたります。これを記念するため、今年8月から9月にかけて、両都市の代表団が相互訪問を行い、記念式典や祝賀会などの行事に参加しました。

大学生など瀋陽市民と交流 ―市民訪問団―

8月29日(日)から9月1日(水)までの日程で、47名の市民から成る「札幌・瀋陽友好都市提携30周年記念市民訪問団」が、中国遼寧省の瀋陽市を訪問しました。瀋陽市では記念式典・祝賀会、両都市市民による交流会、記念植樹などの行事に参加しました。札幌からは市民訪問団のほか、上田市長をはじめ姉妹校訪問団や議員訪問団など、総勢250名を越える市民が同



市民訪問団(瀋陽故宮にて)



瀋陽での記念式典(谷口勲夫氏撮影)

時期に瀋陽を訪れ、各所で瀋陽市民の皆さんから温かい歓迎を受けました。8月31日(火)に瀋陽市師範大学で行われた両都市市民による30周年記念交流会では、日中両国の文化交流に続き、日本語を学ぶ学生と市民訪問団とが数人ずつの小グループにわかれ、両国のお菓子を交えながらの交流が行われました。互いの街の紹介や両国の文化・歴史について、趣味・家族の話題など様々な会話が続き、交流会の最後には記念撮影や札幌での再会を約束する姿が見ら

多くの市民が参加 ―記念式典・祝賀会開催―

9月15日(水)に札幌パークホテルにおいて、中国共産党瀋陽市委員会の曾維書記をはじめとする瀋陽市友好都市提携30周年記念訪問団の皆様をお迎えし、札幌・瀋陽友好都市提携30周年記念式典・祝賀会を開催しました。同式典では、札幌市環境局と瀋陽市環境保護局、札幌観光協会と瀋陽市観光協会との交流協定の調印も行われ、参加した約250名の市民からは、



札幌での記念式典

「これを機に両市の友好と協力関係を今後さらに深めていきたい」との声が聞かれました。

中国とのかけはしとなる人材を ―大学生中国文化・語学 研修派遣プログラム―

青年たちの異文化理解の促進と、国際交流発展の役割を担う人材の育成を目的として、2006年度より瀋陽市の遼寧大学において実地しているこのプログラムも、今回で第5回を数えました。今回は、札幌圏の大学生11名が文化・語学講座や実地研修、現地の学生との交流会を内容とした研修プログラムに参加しました。このほか、瀋陽市内で行われた友好都市提携30周年記念行事にも参加する機会があり、現地の学生をはじめ



瀋陽師範大学での交流会

とする多くの人々と交流をすることができました。学生たちにとっては、30周年記念交流会などの行事の中で中国語で発表をす



ホームビジット(餃子づくり)

と瀋陽の友好交流の歴史も感じることができ、充実した15日間を過ごすことができましたものと思います。また、瀋陽滞在中には現地の日本国総領事館や北海道銀行瀋陽駐在員事務所も訪問し、職務の内容や日中両国の文化・経済交流の状況に関するお話を伺うことができました。

これまで5回実地したこのプログラムにはあわせて52名の学生が参加しており、そのうちの14名がプログラム終了後に自ら中国圏の大学に入学し、長期留学を行っています。また、そのうちの数名が中国政府の奨学金留学生として現在も勉学に励んでいます。隣国であるがゆえに未解決の問題も多い日中両国ですが、こうした学生たちをはじめとする両国の青年が今後も積極的に交流を続け、真の友好・信頼関係が構築されることを願います。

中学生からお年寄りまで ―第28回中国語暗唱朗読大会開催―

9月26日(日)、札幌国際交流館(リフレサツポロ)ライラックホールにて、北海道中友好センター、札幌姉妹都市協会、国際ブラザの共催で、「札幌瀋陽友好都市提携30周年記念 第28回中国語暗唱朗読大会」を開催しました。今年の参加者は、中学生から70代までの幅広い世代の25名で、朗読の部、暗唱の部に分かれ、各々の課題文に挑戦しました。朗読の部は、病床の妻を思う夫の心情を表現した現代文、暗唱の部は、端午の節句にまつわる食文化と農村教育に関する現代文でした。参加者は、語学面だけでなく、課題文に適した表現を心がけ、大変レベルの高い大会となりました。



入賞者記念撮影

札幌―ポートランド 姉妹都市提携記念 第42回英語弁論大会



中学の部入賞者

10月16日(土)と10月17日(日)の2日間、札幌国際交流館(リフレサツポロ)ライラックホールにおいて、第42回英語弁論大会(主催・札幌姉妹都市協会、札幌市教育委員会、札幌市姉妹校連絡会、国際プラザ)が開催されました。

今年も参加者は大学・一般の部、高校の部、中学の部の3部門に分かれ、日頃の英語の学習成果を競い合いました。大学生を中心に11名が参加した大学・一般の部では、札幌駅ビルがピンク色に染まったピンクリボン運動と身近な人の乳がん克服体験をからめて、乳がん検診受診の大切さを流暢な英語で説いた高瀬実花さんが優勝しました。



中学の部で優勝した池戸珠穂さん



高校の部入賞者

高校の部と中学の部では「私の夢」「私が伝えたい日本の良さ」「学校生活で学んだこと」のいずれかをテーマとして、大切な夢や発表しました。高校の部では英語教師になって異文化と子どもたちとの間の架け橋になりたいという夢を語った北海道札幌南高校の丸尾夏海さんが、そして中学の部ではオーストラリアでの語学研修で気づいた日本独自の美点について感動的なスピーチをした藤女子中学校の池戸珠穂さんが第1位に輝きました。



大学・一般の部で優勝した高瀬実花さん

3月にアメリカ・オレゴン州ポートランド市に派遣される予定です。

札幌・ノボシビルスク 姉妹都市提携20周年

～ノボシビルスクから訪問団が来札！～

ノボシビルスク市民訪問団来札！

8/6～11の間、ノボシビルスク市民訪問団（スポーツ、音楽、大学などの関係者ら16名）が来札。姉妹都市提携20周年記念式典・祝賀会をはじめ、各種交流事業に参加しました。



記念式典にて



ノボシビルスク市民訪問団

第20回ロシア語詩のつどい

8月8日（日）、国際プラザ交流サロンにて、日本ユーラシア協会札幌支部、札幌姉妹都市協会、国際プラザの共催で、「札幌-ノボシビルスク姉妹都市提携20周年記念 第20回ロシア語詩のつどい」を開催し、63名が参加しました。

ロシア語を学ぶ方々が、ロシア語で詩の朗読を披露するこのつどいのテーマは「出会い、人生、そして愛」でした。

今年は、姉妹都市提携20周年を記念し、ノボシビルスクから来札した市民訪問団16名も参加しました。第1部では、ロシア語の詩の朗読と合唱団による歌の披露、第2部の交流会では、訪問団へのロシアの生活などをインタビュー形式で伺いました。第3部は、ジターノフ先生によるロシアの詩についての講演が行われ、詩を通じて、ロシアを知る良い機会となりました。



交流会の様子

プーシキンの詩の朗読と音楽の夕べ

8月9日（月）には、姉妹都市提携20周年を記念したコンサートが、北海道国際交流協会（ハイメス）と国際プラザの共催で開催され、日口の関係者ら150人余がヤマハアベニューホールに集い、友好を深めました。

当日は、琴合奏、ロシア語でのプーシキンの詩の朗読を皮切りに、合唱、フルート、ピアノによる演奏が披露され、会場が詩と音楽の美しい調和に包まれました。

最後は、出演者と客席が一体となり、全員でロシア民謡「カチューシャ」を合唱し、盛大に20周年を祝いました。

ホームステイ・ホームビジット

この夏、ノボシビルスクから多くの市民が札幌を訪れ、ホームステイ・ホームビジットを通して札幌市民との普段着の交流を深めました。7月9日（金）には小学校訪問団10名のホームビジット、7月24日（土）～26日（月）には日本語青年訪問団20名のホームステイ、8月7日（土）には市民訪問団16名のホームビジットをそれぞれ実施し、受入家庭延べ29家庭がノボシビルスクからのゲストと交流の時間を過ごしました。今回はホームステイ制度登録家庭に加え、6月の札幌市民訪問団参加者の皆様にも受入のご協力をいただきました。遠く離れた姉妹都市ノボシビルスク。ゲスト、受入家庭にとってはぐんと近い都市になったのではないのでしょうか。



第3回ノボシビルスク日本語青年訪問団来札！

7/17～28の間、ノボシビルスク市から日本語を学ぶ大学生・社会人21名（ノボシビルスク日本語青年訪問団）が来札。同訪問団の受入は今回で3回目となりました。

大学訪問交流や、日本語ボランティア「窓」による日本語レッスン、在札幌ロシア連邦総領事館訪問、日本文化体験、ホームステイなど、様々な交流をおこないました。

日本文化を体験

ノボシビルスク日本語青年訪問団は、7月19日（月・祝）、国際プラザの日本文化体験ボランティアの皆様のご協力により、国際プラザにて茶道・着付を体験しました。

茶道体験ではお茶とお菓子をいただきながら、作法や道具を興味深そうに見ていました。またボランティアさんのアドバイスを受けながら、お茶点でも挑戦しました。着付体験では、女性は振袖、男性は袴を着付けてもらい、嬉しそうにたくさん写真をとっていました。

興味のある日本の伝統文化を実際に体験することができ、訪問団はこの日本文化体験にとても満足したようです。



カルチャーナイト

7月23日（金）、国際プラザ交流サロンにおいて、カルチャーナイト2010参加事業「ロシアン・ナイト」を開催しました。「姉妹都市ノボシビルスクからのお兄さん・お姉さんと遊ぼう」というテーマのもと、小・中学生を対象に、来札中であつたノボシビルスク日本語青年団21名と交流を深めるイベントを行いました。22名の参加者は、青年団からノボシビルスクについて紹介してもらったり、ロシアや日本のゲームと一緒に遊んだり、ロシアの人形と一緒に作ったりと、楽しみながらロシアの文化にふれる時間を過ごしました。



ノボシビルスクを知るミニセミナー&レッツトークロシア語ユーススペシャル

7月21日（水）、国際プラザ交流サロンにおいてノボシビルスクを知るミニセミナー&レッツトークロシア語ユーススペシャルが行われました。ロシアに興味があり、日頃ロシア語を学習している学生や市民が約40名参加しました。前半は青年訪問団で来札したマリアさんからノボシビルスクの町について日本語でのプレゼンテーションがあり、地元の人ならではの町の建物やお祭りなどの写真

を交えた説明は、札幌の姉妹都市を詳しく知る良い機会となりました。後半は、双方がロシア語での会話を楽しみ、会話は尽きることなく笑顔が沢山見られました。今回はたまたま参加者の中に声楽家の方がいらっしゃったため、ロシア語の独唱をアカペラで披露していただく機会があり最後にはスタンディングオベーションも見られ、大変盛り上がった会となりました。



医療英語&通訳セミナー

医療現場で使われる表現や勉強法を学ぶ

9月26日（日）、医師でもあり医療英語教育者としても活躍されている押味貴之氏をお招きし、医療英語&医療通訳セミナーを開催しました。今回で5回目となる当セミナーは「医療現場で役立つ使える英語」をテーマに、医療通訳に興味がある方のための入門編と、医療に従事されている方や医療通訳ボランティアとして活動されている方などを対象としたスキルアップ編に分けて実施されました。



入門編では医療通訳とはどのようなものか、どんな知識や技術が必要か、

などについてお話いただき、スキルアップ編では医学用語や医師と患者との間で使われる会話の聞き取り等を実践し、今後役立つための勉強方法を学びました。

どちらの講座も押味先生の具体的でわかりやすいお話と、アクティビティやディスカッションを多く取り入れた内容で、参加されたみなさんも熱心に耳を傾けていました。また今回学んだことを現場で活かし、スキルアップしていきたいなど、やる気アップにもつながったようです。



札幌圏大学 国際交流フォーラム

平成22年度スタッフセミナー ～大学がつなぐ地域の多文化共生～

札幌圏の23大学・短期大学からなる札幌圏大学国際交流フォーラムは、国際交流に関する情報交換を目的に、事務局を国際プラザに置いて活動しています。

10月22日（金）に行われたスタッフセミナーでは多文化共生センター大阪代表・田村太郎氏を講師に招き、「地域における多文化共生と大学の役割」というテーマで講演が行われました。



田村氏は大学が外国人学生や研究者の受け入れをさらに進めることの重要性を述べたうえで、「大学は地域が外国人を受

け入れる「入り口」としての機能があります。生活を円滑にスタートさせる支援を地域ぐるみで行うための拠点となり、卒業後も地域に貢献するための道筋を示す役割を持ちます。」と、地域の多文化共生を進めるうえで大学が果たす役割の重要性を、実例をあげながら述べました。

当フォーラムでは、今年度から市民向け事業・留学生支援事業にもさらに積極的に取り組むことを予定しています。



講師：田村太郎氏

外国籍市民もいっしょに防災！

国際プラザ防災事業

今年で5回目！
防災ツアー



9月1日が「防災の日」であることはご存知ですか？国際プラザでは「防災ツアー」と題し、外国籍市民に呼び掛けを行い、札幌市総合防災訓練に毎年参加しています。今年は留学生や北海道インターナショナルスクール生徒等、計22名が訓練に参加しました。当日は30度を越す猛暑！野外での訓練でしたが、消火訓練、応急処置訓練、煙道通過訓練など、参加者は熱心に取り組んでいました。外国語ボランティアネットワーク多文化共生グループ「SKY」のメンバー4名が同行し、外国籍市民の訓練参加をサポートしました。

留学生に正しい防災知識を
防災センター見学ツアー

札幌市には毎年多くの留学生がやって来ますが、災害時の行動について正しい知識を学んでもらおうと、SKY、北海道大学と協力し、10月9日(土)札幌に来たばかりの留学生を対象に防災センター見学ツアーを実施しました。当日は7カ国18名の留学生が参加し、札幌市民防災センターにて地震、消火、煙道通過を疑似体験し、災害時の正しい行動を学びました。またSKYの案内のもと、道中

で地下鉄の利用方法を学び、大通公園、時計台にも立ち寄りしました。最後は国際プラザ交流サロンを見学し、盛りだくさんのツアーは終了しました。

いざという時のために
多言語FM放送・みんなのラジオ

「みんなのラジオ」では外国籍市民の方のインタビューを紹介しています。外国籍市民を身近に感じていただくとともに、色々な国の文化や考え方に触れることで毎回新しい発見があるはずですよ。パーソナリティ・宮田圭子さんの相手役は月替わりで国際交流員が務めます。9月24日(金)のスペシャル番組では、クリスティアン・フィーツェックさん(ドイツ)が「私のように地震がほとんど無い国から札幌に来ていて外国人にとって、いざという時のために防災知識を身につけることはとても大切ですね」と、防災ツアーの感想を話しました。



※「みんなのラジオ」は毎週金曜日15時～16時の番組「そら色ステーション」内で放送します。

- 7月2日～12月3日 15時35分～50分
- 12月10日～1月28日 15時30分～35分
- 中央区：ラジオカロスサッポロ
- 豊平区：FMアップル
- 西区：三角山放送局
- 東区：さっぽろ村ラジオ

国際交流員の就任挨拶

今年8月に新しく着任した札幌市国際交流員のクリスティアン・フィーツェックさんとハイディ・フェルダーさんに今後の抱負を伺いました。

クリスティアン・フィーツェックさん



グーテン・ターク！8月に札幌市国際交流員として来札しました、クリスティアン・フィーツェックです。札幌の姉妹都市であるミュンヘンから来ました。生まれたのは旧東ドイツのポツダムですが、1989年にベルリンの壁の崩壊時に旧西ドイツへ引越しました。というわけで、私はドイツ再統一の申し子といってもよいです。ミュンヘン大学では日本学を専攻し、1年間九州大学へ留学し、後は、1年間中国の北京と瀋陽で過ごしました。なので、札幌、そして北海道は初めてです。8月に来札した時に新聞で「今年は札幌で熊の出没が多い」との記事を読んだので、少し不安な気がしましたが、ご覧の写真の通り、熊とも仲良くなりました。これからは札幌の皆さんに(熊さんを含めて)ドイツのことを紹介したいと思います。よろしくお願ひします。

ハイディ・フェルダーさん



札幌のみなさん、はじめまして！アメリカから新しく配属されたハイディ・フェルダーと申します。私はカリフォルニア州シール・ビーチ市から参りました。札幌の姉妹都市ポートランドはカリフォルニアの北のオレゴン州にある町です。ハリウッドなど芸能人がたくさん住んでいる州にいましたが残念ながら大物の有名人のお友達はいません。とはいえ、個性的な人もいっぱいいる州ですので楽しく毎日過ごしていました。札幌は初めて訪れましたが、来札してからいろんな人から暖かく迎え入れていただいととても幸せです。フィーツェックさんのように熊さんをお友達(?)にするほど優秀ではありませんが、できるだけ札幌のみなさんと仲良く交流できるように全力を尽くしますので、どうかよろしくお願ひします。

中国のMICE市場に手ごたえ
CI-BTM2010出展

コンベンションビューローでは、8月31日(火)から9月2日(木)まで、中国北京・国家会議中心(国際会議場)で開催されたCI-BTM2010(China Incentive, Business Travel & Meetings Exhibition)に出展し、中国の巨大なMICE市場に対するプロモーションの一環として、35件の企業・旅行会社との商談を行いました。

今年のCI-BTMには、26カ国・地域から約300団体・企業が出展し、招待された良質なバイヤー(300企業・団体のキーパーソン)との商談が活発に繰り返されました。

観光庁の掲げる新しいキャッチコピー「Japan Endless Discovery」を大きく打ち出した日本ブースには、JNTO(日本政府観光局)をはじめ、札幌、東京、千葉、沖縄のコンベンションビューローや、ホテル、旅行会社4社が参加し、日本のMICE適地としての多彩な魅力を



アピールしました。

札幌商談コーナーでは、北海道を舞台とした映画「フェイチェンウーラオ」の人気効果もあり、企業の報奨旅行や研修視察ツアーの企画などの情報提供を求めるバイヤーの来訪が相次ぎました。中国事情に精通する専任のMICEアドバイザーを有する札幌は、中国企業に対するダイレクトマーケティングが有効であることから、多大なデータベース情報の中から有力企業等を抽出して出展に臨みました。結果、現地有望案件を持つ主催者との面談に成功し、現在もフォローアップを行っているところですよ。



日本が誇る「安全性」「清潔さ」「秩序」という要素に加え、本年7月からの「中国人の個人ビザ解禁」情報は、今後の誘致活動に追い風であり、さらに、四季おりおりの魅力をもつ札幌は、中国市場のニーズに応え得る十分なポテンシャルを持っていることが実感されました。

アジア有数のMICE
見本市へ出展

IT&CMA2010、
JNTOシンガポールセミナー

IT&CMA2010
コンベンションビューローは10月6日(火)、7日(水)の両日、タイ・バンコクコンベンションセンターで開催されたMICE見本市Incentive Travel & Conventions, Meetings Asia 2010(IT&CMA2010)に出展しました。同見本市は今年で開催18回目を数え、世界38カ国のセラーと54カ国のバイヤーが集うアジア有数のMICE見本市です。

札幌の雪国としての知名度はアジア人バイヤーやメディアの間では依然として高く、さらに新たなMICE開催地を求める東欧諸国からの問い合わせも増え、事前のアポイント件数を大きく上回る計48件の商談を行いました。

商談のほか、ICCA(International Congress and Convention Association)主催のセミナーやアジアを中心活躍するMICE専門家を講師に迎えたセミナーへの参加



を通じ、世界の先進的な取り組みについて情報収集を行いました。

シンガポールセミナー

IT&CMA出展に続き10月8日(金)には、シンガポールのマリナー・ベイ・サンズを会場とした、JNTO主催のシンガポールセミナーに参加。マリナー・ベイ・サンズは、シンガポールに今年オープンしたホテル、コンベンションセンター、ショッピングセンター、カジノなどを備えた巨大複合施設です。セミナーはこの施設内のコンベンションセンターで開催され、シンガポールのMICE主催者や関連業者約100名が参加。日本側サプライヤーは札幌のほか、横浜、大阪、沖縄、国内大手旅行代理店、ホテルが参加し、プレゼンテーションと具体的なMICE案件の情報収集を行いました。

世界的にMICE誘致の動きと競争が加速している昨今、当ビューローでは地元企業、大学、札幌市や近隣都市などと共にMICE受入サービスや新しいユニークなニュー開発など、札幌独自の受入体制と支援内容を拡充していく予定です。



***MICEとは**
Meeting(会議、研修、セミナー)、Incentive(報奨・研修旅行)、ConventionまたはConference(大会、学会、国際会議)、EventまたはExhibition(イベント、展示会、見本市)の頭文字をとった総称。
観光庁では2010年をJapan MICE Yearとし、MICE施策推進のためのさまざまなプロモーションを実施しています。

南東欧地域5カ国6名が観光振興研修に参加

JICA地域別研修(環境保全に配慮した観光振興)コース



研修実施にあたり、コースリーダーである札幌国際観光学部・市岡

コンベンションビューローでは、8月13日(金)から約3週間にわたり、JICA(独立行政法人国際協力機構)地域別研修「南東欧地域・自然環境保全に配慮した観光計画・振興」コースの実施受入を行いました。研修参加対象国となる南東欧地域では、持続的経済発展を目指す中で、観光が有望産業として位置づけられています。本コースは、観光分野に携わる行政官を対象に、豊富な観光資源を有効かつ持続的に活用する観光計画・振興策の策定能力向上を目的として実施されています。3年コースの2年目にあたる今年は、5カ国(アルバニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、モルドバ、セルビア、マケドニア)6名の研修員を受け入れました。



浩子教授と共に、「持続可能な観光振興(サステナブルツーリズム)」を主要テーマとしたカリキュラム編成を行いました。講義では、環境省、観光庁、北海道などの担当行政官や全国のエコツーリズム分野における第一人者を講師に招き、観光政策や各地の事例を通じて持続可能な観光振興について学びました。また、研修後半に設けられた実地研修は、世界自然遺産であり、官民学がひとつになって環境保全・観光振興に取り組む知床を訪れ、サステナブルツーリズムを実践する具体的な取組を視察する有意義なものとなりました。

当ビューローでは、今後も、JICAコース受入事業などに積極的に協力し、国際協力促進および札幌の知名度向上に努めてまいります。

国際会議支援レポート ISASI 2010

9月6日(月)～9日(木)、2010年国際航空事故調査委員会会議(International Society of Air Safety Investigators 41st Annual Seminar - Sapporo) ISASI2010が開催されました。国内外から約280名の参加者がロイトン札幌ホテルに集結しました。

この国際会議は、札幌誘致の段階から開催に至るまで、札幌市東京事務所と連携した誘致・支援活動により約5年の月日が費やされたものです。

会議参加者の快適な札幌滞在サポートと、同僚者向け日本文化体験プログラム実施のため、今回も外国語・日本文化体験ボランティアの皆様が活躍。会期中、会場内に設けられたインフォメーションデスクには札幌市内のみならず北海道の交通アクセスや観光に関する多くの問い合わせが寄せられました。また日本文化体験で着物を着た同伴者が、その着物姿をセミナー会場内で披露する場面もみられました。

今後も、札幌への国際会議の誘致から開催の成功に至るまで支援活動を進めて参ります。



インフォメーションデスク

豪州MICE専門誌が札幌を取材



札幌コンベンションセンターを取材

7月19日(月)から21日(水)までの3日間、豪州MICE専門誌より記者2名が来札し、市内および近郊の取材を行いました。

コンベンションビューローでは取材に際し、「札幌におけるMICE基盤、参加者の満足度、地元市民のおもてなし、対外的な発信、これらを最大化する」との意気込みを込めた“Sapporo MaxiMICE!”をキャッチフレーズに、市を挙げたMICEへの取り組みを紹介しました。

会議場やホテル、ユニークなパーティー会場に転用可能な観光施設のほか、環境に配慮した取り組みはもちろん、食や癒しなど充実したアフターコンベンションなど幅広いPRに努めました。



すし握りを体験

「第5回アルフベン会議」市民向けプログラム開催

宇宙の不思議へ高校生を魅了

10月3日(日)～8日(金)まで北海道大学にて「第5回アルフベン会議」が開催されました。「アルフベン会議」とは、宇宙プラズマ物理学について13カ国以上、約100名が参加するノーベル物理学賞アルフベン博士の名前を冠した国際会議です。

10月9日(土)には、立命館慶祥高等学校にて、スウェーデン国立宇宙物理学研究所の山内正敏氏と二穴喜文氏が、「オーロラから惑星科学へ」というテーマで生徒約300名を対象に、オーロラの観測方法、惑星科学との関連性、「勉強と研究の違い」などについて講演。参加した生徒は、「地球で緑のオーロラが見られるのは酸素のおかげだと知り、オーロラに生命を感じた」と、感動していました。

また、両氏と当会議主催者である北大・渡部重十教授を囲んだ座談会では、NASAへの研修旅行や進学を控えた生徒たちから、惑星探査機や海外での研究について積極的な質問があり、生徒たちは宇宙の不思議な目を輝かせていました。



さっぽろMICE アカデミー2010開催

9月30日(木)から全7回シリーズで「さっぽろMICEアカデミー」が開催されました。札幌市内のコンベンション関連企業を中心に組織するNPO法人コンベンション札幌ネットワークが主催し、市内の関連企業で働く人を中心に、学生や関心を持つ方々40名が参加しました(国際プラザ共催)。Japan MICE Yearである今年、MICEという切り口で、講義とワークショップをベースとしたカリキュラムとなりました。メイン講師として日本イベントプロデュース協会理事・教育人材部長である梶原真幸氏を講師に迎え、毎回積極的なディスカッションを行い、最終日には各グループから企画提案のプレゼンと優秀賞の審査がありました。

グループごとに協力してプレゼンの準備をし、多くの人が最終日に修了証書を受け取りました。このアカデミーの開催を通じて、参加者同士の交流も深まり、それぞれの職場での活躍につながることが期待されます。



アイデアを共有するグループワーク

コンベンションカレンダー-2010年12月~2011年11月

コンベンションビューローでは、札幌市内で開催が予定されている主なコンベンションで、主催者側から公表が許可されているもののみ、ホームページ上の「コンベンションカレンダー」にて公開しております。コンベンションカレンダーは半期に一度更新をおこなっており、約1年先までの開催情報だけでなく、既に開催された過去の情報も提供しております。

<http://www.conventionsapporo.jp/j/meeting/calendar/calendar.html>

国際コンベンション		
2011年 7月	The 3rd International Symposium on Surface and Interface of Biomaterials(SIB2011)	(100名)
9月	国際微生物学連合 2011 会議(IUMS2011)	(6000名)
10月	The 4th International Conference on Human-Environment System(ICHES2011)	(400名)
11月	17th Small Engine Technology Conference(SETC2011)	(250名)
国内コンベンション		
2010年 12月	日本看護科学学会第30回学術集会	(2500名)
2011年 1月	第21回日本疫学会学術総会	(830名)
3月	日本生態学会第58回大会	(2000名)
3月	第45回日本水環境学会年会	(1300名)
5月	日本心理臨床学会 第30回 春季大会	(3500名)
6月	日本ヨーガ療法学会第9回研究総会	(1300名)
6月	第63回日本細胞生物学会大会	(615名)
6月	第19回日本慢性期医療学会	(1500名)
7月	第3回日本創傷外科学会総会・学術集会	(1010名)
7月	第41回全国酪農青年女性酪農発表大会	(600名)
7月	第50回日本婦人科腫瘍学会学術講演会	(1200名)
8月	全国高等学校PTA連合会大会 北海道大会	(10000名)
9月	第25回日本臨床内科医学会	(1000名)
10月	自動車技術会2011年秋季大会	(1500名)

「札幌MICE総合戦略」を策定

観光庁が掲げるJapan MICE Yearの今年、札幌市では、今後5年間のMICE振興の目標と施策をまとめた「札幌MICE総合戦略」を策定しました。

国際プラザの基本理念である「おもてなしの心」を活かした市民参加型のMICE推進をベースに、10月に「MICE発展のための覚書」を交換した韓国大田コンベンションビューローとの共同によるMICE推進、中国市場へのマーケティング強化、札幌Greener Week(環境系会議週間)の開催を戦略の柱として、札幌MICEの市場規模を、今後5年間で、現在の470億円から570億円に増大させることを目指します。

11月23日(火)からの韓国・ソウルで開催されたMICE専門見本市への出展をキックオフ事業とし、当ビューローではMICE推進に向けて積極的に取り組みを開始しています。

ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo 開催



デポジット制度導入のお知らせ

—リターナブル容器の使用と回収にご協力ください—

ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporoでは、リターナブル容器(洗って使いまわしができる容器)を使用しています。また、今回からデポジット制度の導入により、飲食物購入の際には、お客様より食器使用料100円をお預かりすることになりました(お預かりした100円は、食器返却の際にお返しします)。オリジナルマグカップはお持ち帰りしていただくものですが、写真のリターナブル容器は持ち帰らず、回収場所への返却をお願いします。

また、リターナブル容器の洗浄ボランティアを募集します。環境に優しいイベントを実現するため、ぜひ、皆様のお力をお貸しください!

<ボランティア活動のお申込み方法>

申込期間 11月1日(月)～12月23日(木・祝)

申込み先 札幌市コールセンター(電話:011-222-4894)

受付時間 8:00～21:00

リターナブル容器▶



今年もイブまで開催!

札幌市とドイツのミュンヘン市の姉妹都市提携30周年を記念して始まった「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」も、昨年は過去最高の57万人以上の方にお楽しみいただき、初冬の札幌のイベントとして大変好評をいただいております。

9回目となる今年の開催期間は過去最長となる29日間、今年もクリスマスイブまで開催します。恒例となったグリューワインやドイツ料理、伝統的なクリスマス飾りなどが今年もお店に並びます。また、今回が初出店の店もありますのでお楽しみに! 大人気のマグカップやピンバッジの入手もお忘れなく!! 平日夜間や週末には、屋内外で楽しいイベントが盛りだくさん。このほか、毎週日曜日には『プレゼントデー』も開催、会場内で商品をご購入いただいた方には、素敵なプレゼントが当たるチャンスもあります。何が当たるかはお楽しみに! 皆様のご来場をお待ちしています!!

開催概要

期間 11月26日(金)～12月24日(金) 29日間

時間 平日/12:00～21:00

但し金曜日および12月22日(水)は21:30まで

土曜日/11:00～21:30 日曜日/11:00～21:00

会場 大通公園2丁目 ホワイトイルミネーション会場

オープニングセレモニー 11月26日(金)16:30～17:00

主催 ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo 実行委員会

ホームページ

<http://www.city.sapporo.jp/christmas-market/index.html>

協賛金ご協力をお願い

ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporoの実施には、応援してくださる皆様からの協賛金が重要な財源となっております。魅力あるクリスマス市を実施するため、皆様のご賛同と、協賛金のご協力をお願いします。

ご協力金額:1口 1,000円

※ご協力いただいた皆様には、会場で販売するミュンヘン・クリスマス市2010年度版オリジナルマグカップを進呈させていただきます。



今年のマグカップ▶

賛助会員限定特別企画

賛助会員の皆様へ感謝の気持ちを込めて、クリスマス市での賛助会員さま限定の特別企画を今年も実施いたします!

今年は、会場内の店舗で使用できる購入補助券をさらにパワーアップさせて贈呈いたします。

詳しくは、12月号プラザだよりの同封物をご覧ください。

25ヶ国以上の留学生と異文化交流、
多文化の共有を体験できる日本語学校です。

あなたのご都合に合わせた2コース
日本語教師養成講座

教育訓練給付制度適用

(コース修了後、授業料の20%、最大10万円が戻ります。)

■専科(6ヵ月間集中)

■本科(午前・午後)

説明会随時実施中!

※入学時期は4月、10月の年2回。

●無料で入学案内をお送り致します。お気軽にお問い合わせ下さい。



外国人のための日本語

JAPANESE FOR FOREIGNERS

■大学進学コース ■一般日本語コース

(財)日本語教育振興協会認定校

札幌国際日本語学院

Japanese Language Institute of Sapporo

〒064-0806 札幌市中央区南6条西26丁目2番7号
地下鉄円山公園駅徒歩7分

TEL.011-562-7001 FAX.011-562-7002

<http://www.jli.co.jp/> E-mail:info@jli.co.jp